

リユースTシャツについて

FRIENDLY DAY INTERNATIONAL 代表 藤田香織

はじめに

「クールに環境にコミットしたい」。そんな想いからスタートしたリユースTシャツ。リユースTシャツとは、予め回収した不要Tシャツを裏返しにし、そこに新たなデザインをプリント、Tシャツをリバーシブルにしてもう一度着てしまおう！というもの。ゴミになってしまうはずだったTシャツをリサイクルの一環としてリユースします。

リユースTシャツのはじまり、構成

現在、リユースTシャツを推進しているフレンドリーデーインターナショナル（以下、F.D.I）のスポンサーに、株式会社スーパーブランニング（注1）という雑貨メーカーがある。リユースTシャツは、もともと同企業の一環境活動だった。2002年、2003年に、東京都渋谷区にある代々木公園で開催される環境イベント「アースデイ東京」（注2）に、社員がボランティアで出展、販売していた。その後、

2003年にF.D.I.が立ち上がり、同企業に支援していただくことが決定した際に、リユースTシャツを引き継ぎ、「リユースTシャツプロジェクト」として本格的にスタートした。

リユースTシャツには、その元手になる不要になったTシャツが必要だ。現在、工場でミスプリントがあったものや、ブランドやメーカーのサンプル品、各種イベントやキャンペーンで使用するために制作したTシャツの余りをリユースしている。従って、私たちが提供しているリユースTシャツは、基本的には、古着ではなく、誰も手を通していない新品なのだ。

リユースTシャツの展開

環境メッセージを発信しているイベントに出展、販売を基本とし、不定期にリユースTシャツのワークショップを開催している。また、環境的な取り組みをしたいと考えている企業や大学、学校、団体などと一緒に、オリジナルのリユースTシャツを制作する機会も増えてきた。

出展場所のこだわり

リユースTシャツは、ある一定のイベントでしか手に入れることは出来ない。その「ある一定のイベント」には、私たちがの定義があり、それに合うイベントしか出展しない。

その定義とは、「環境的なメッセージや社会的なメッセージを発信しているイベントであること」。これは、「リユースTシャツはただの



写真：リユースTシャツ。（手前から）アースガーデン夏2005のデザイン、911Be-inのデザインイベントによってデザインが変わる。

写真：リユースTシャツには必ずプリントされているミスター・フレンドリー。「世界中の人びとに幸せを届けたい」ミスター・フレンドリーはいつもそう思っています。

ファッションアイテムではなく、環境的なメッセージが含まれている」ということを伝えるのに重要になってくる。しかし、その「環境的なメッセージ」や「社会的なメッセージ」は、時に、共感出来ないほどの強く暴力的なものもあり、そういったイベントは避け、常にコンセプトである「COOLに環境にコミットしたい」という精神を守るよう、意識しながら場所を選んで出展している。

リユースTシャツの人気

リユースTシャツは、おかげさまで、発売以来、大変な人気がある。出展するたびに飛ぶように売れ、イベントが終わる頃には、「完売御礼」のPOPが立つこともしばしばある。

これには、いくつかの理由が考えられる。

ひとつは、デザイン性の問題である。F.D.I.、並びにリユースTシャツを応援してくれているソーシャルキャラクター「ミスター・フレンドリー」のかわいさやデザイン性に、好感を持つ方が多いということであろう。

そして、そのデザインは、イベント毎にすべて変えている。リユースTシャツを出展するたびに、常に新しいデザインを提案、販売しているので、飽きが来にくい。

また、Tシャツの価格も魅力のひとつだろう。リユースTシャツは、一枚500円。デザインがかわいいう上に、安価ならば、環境問題云々よりも、まずは単純に「欲しい」と思うのかもしれない。

リユースTシャツとワークショップ

最近では、環境問題が一種の流行になっているとささやかれつつある。それを少しでも長く、多くの人に伝播していくには、「環境教育」が非常に重要になってくる。

そこで、私たちは、不定期にワークショップを開催している。

1) ヌイグルミワークショップ

私たちは、リユースTシャツを制作するために、常に不要になったTシャツを回収しているが、その中には、襟が伸びたり、一部汚れていたり、穴が開いているものが少なくない。いくら環境製品でも、こういったものはお客様に販売出来ない。だからと言って、一度回収したものをそのままゴミとして捨

てしまうのも、何かが違う気がする。

そこで、私たちはこのようなTシャツをヌイグルミにするワークショップを提案、開催している。不要になったTシャツを裏返しにし、そこにヌイグルミの型紙パターンをTシャツデザインとしてプリントする。そこには、切るラインと縫うラインも簡単にプリントしてあり、そのラインに沿ってTシャツを切り、縫って、もともと袖や裾部分にあたるはぎれを細かくして中に詰めると、ひとつのヌイグルミが出来上がる。

これは、幼稚園児から大人まで夢中になって取り組むワークショップで、2005年に名古屋で開催された愛・地球博でも大人気だった。

事例紹介

- ・日時：12/23（土）11:00～17:00
- ・会場：IID世田谷ものづくり学校 池尻小学校 第2体育館エントランス
- ・参加費：500円
- ・定員：なし 当日自由参加・申し込み不要
- ・主催：F.D.I.+IID
- ・内容 予め回収した不要Tシャツを裏返し、ぬいぐるみの型をプリント。型に沿って裁断し、ミシンや手で縫っていきます。ぬいぐるみの中に型抜き後のTシャツの余り生地を詰めるのでゴミも出ません。この機会に、ぜひ「リサイクルすること、ゴミを出さないこと」の大切さを話し合ってみましょう。

以下、HUG THE WORLD（F.D.I.公式ブログ）から引用

今日は、開始時間を過ぎると間もなくワークショップの席が満席に。

お父さんと子どもたち、お母さんと子どもたちがぞくぞくと集まって来てくれました。

きっとお父さんやお母さんに、「おねえさんにやりたい、ってお願いして来なさい」と言われたのかな、そんな子どもたちが、「ほくもやりたいんだけど、いいですかー?」とか、「小学校一年生でも出来ますか?」とか、子どもたちが自らわたしに声をかけてきてくれました。

このワークショップ、ミシンや針と糸を使うため、ある程度、年齢的な参加資格はあるものの、敢えて対象年齢を提示していません。というのも、その子どもがまだひとりだけでやるには難しいかもしれないけど、お父さんやお母さん、あるいは、おじいちゃん

おばあちゃんに手伝ってもらったら、何歳でも出来ることだから。触れて欲しいのです。

ワークショップは、Tシャツを点線に沿って切るところから始まります。

はじめりは簡単。指を切らないように気をつけながら切るだけ。

ここがミソのような気がする。すんなり入っているもんね。

いざ縫うとなると、一瞬構える子どもたちが多いものの、お父さんやお母さん、わたしたちスタッフが、子どもたちに「自分でやってみる？」って聞くと、必ず「うん!!」と元気なお返事。

ミシンもゆっくり進むように設定出来るので、大人がそばで見ているれば、小さな手でもミシンをかけられます。

年長さんの女の子も、ミシンを上手に使いこなしていました。

ひとりで参加した女の子は、小学校低学年なのに、わたしのアドバイスは必要ない状態。

よく聞くと、おばあちゃんとお手玉を作ったことがあるとか...

子どもがハマる一方で、これまた大人もハマる!! 単純におもしろいのです。

お父さん、お母さんも熱心に、子どもたちと競うようにヌイグルミを作っていました。

それにしても、今はとっても充足感を感じています。

一日中、子どもたちと接していて、疲れるどころか逆に元気になりました。

ある女の子は、こう言っていました。

「今日ね、お兄ちゃんが塾でここに来られないか

ら、このヌイグルミは、お兄ちゃんへのお土産なんだー」

その女の子の表情で、お兄ちゃんが喜んでくれる姿を想像しているのがわかります。

こういった単純だけど、一番大切な思い。

思わず抱きしめたくなくなってしまいます。

子どもの目は、なんてキラキラしているのでしょうか。

そして、そんな子どもと接する大人たちは、なんて優しい目をしているのでしょうか。

そんな空間にいらさせてもらって、そんな空間に浸って、わたしは、今日一日で2007年へのエネルギーを満タンに出来た気さえます。

こんな子どもたちが大人になったとき、今よりも少しでもいい社会を用意してあげたいなと、そう素直に思います。

2) アートワーク

リユースTシャツは、デザイナーやアーティストとコラボレーションする機会も多い。そこで、デザインすることの楽しさを共有しようと、自宅から不要になったTシャツを持ってきてもらい、裏返しした面に自由にデザインしていくワークショップも開催している。時には、デザイナーやアーティストに先生になってもらい、その特性を生かしたデザインを起こしたり、画材を変えてみたり、自由に、クリエイティブに環境問題に関わってもらおう、と、かなりの幅を持って取り組んでいる。

事例紹介

- ・日時：5/30（水）7:30～8:30
- ・場所：大手町カフェ（地下鉄各線大手町駅直結）
- ・持ち物：不要になったTシャツ（1枚）
- ・内容：リユースTシャツのワークショップ。不要になったTシャツを裏返して、そこに自由にアートワークを施し、世界に1枚しかないオリジナルリユースTシャツを制作します。
- ・協力：ハガレックス・ジャパン
- ・参加費：無料
- ・参加申し込み：事前申し込み制です。

以下、HUG THE WORLD（F.D.I.公式ブログ）から引用

無事にワークショップを終了しました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとう



写真：お母さんと一緒にぬいぐるみを作る女の子。お母さんの膝の上に座ってご機嫌です。

ございました。

本日のワークショップ、非常に楽しかったです！
実は、すっかり女性のお客様ばかりだと思い込んでいた私ですが、実際には男性のお客様も多く驚きました！良かったです！

それにしても、皆さんの発想、アイデアはスバラシイ！ただただ感心してしまいました。「十人十色」という言葉通り、本当に人それぞれ。限られた時間の中で、それぞれ思い通りのデザインをTシャツに落としていく...その光景は、目を見張るものがありました。

今日、私は4：30起き、5：30の電車に乗って大手町にたどり着いたわけですが、朝の爽やかさ、清しさに魅了されてしまいました。やはり空気は綺麗だし、大手町カフェという場所もたくさんのグリーンがあって気持ちがいい。

気のせいかな、今日の仕事は捗っています。

コラボレーション

最近では、「オリジナルリユースTシャツを作りたい」と、企業や大学、学校、団体とコラボレーションする機会が多くなってきた。ここで、以下二つのケースを紹介したい。

1) TBSラジオ環境キャンペーン×リユースTシャツ

TBSラジオ（95.4kHz）の環境キャンペーンの一環で、スタッフウェアにリユースTシャツが採用された。今回のリユースTシャツの元手になるTシャツは、以前同社で制作し、使用出来なくなっていたTシャツ。そのTシャツを裏返し、そこにTBSラジオ環境キャンペーンのオリジナルデザインをプリント、スタッフウェアとして蘇った。

【TBSラジオリユースTシャツ】

今回、TBSラジオ環境プロジェクトはフレンドリーデーインターナショナルとのコラボレーションで、スタッフウェアに「リユースTシャツ」を採用！

TBSラジオが以前に制作し、使用できなくなってしまったTシャツを裏返しにして、新しいデザインを施してスタッフTシャツとして着用しました。

その余り分を会場でも500円で販売したのですが、予想外の大好評！！

2日分として用意していた限定数を、初日の午前中に完売してしまいました。その後、多くの方から「買いたい」とのお言葉を頂いたのですが、ごめんなさい（今度製作するときはもっとたくさん作りますね）。

このリユースTシャツの販売収益も、全額「グリーンベルト運動」に寄付させていただきます。ご購入いただいた皆様、ありがとうございました。（TBSラジオHPより引用）

2) ヒューマンアカデミー×リユースTシャツ

キャリアアップを目指す人に数多くの講座を開いている専門学校、ヒューマンアカデミー（注3）の文化祭のスタッフTシャツにリユースTシャツが採用された。文化祭担当の先生が、以前からリユースTシャツをご存知で、生徒たちに提案したところ、賛同の声が上がり、実現に至った。

今回のリユースTシャツの元手になるTシャツは、生徒たちから回収。「家で眠っているTシャツをひとり一枚持ってきて」と生徒たちに呼びかけ、500枚を回収した。Tシャツデザインは、デザインを勉強している生徒たちから募集し、前面一点、背面一点のデザインが採用された。

リユースTシャツとのコラボレーションでは、以上のように社員や学生、生徒たちの賛同、参加が必要不可欠になってくる。私たちは、安価でスタッフ



写真：スタッフウェアを着て、古着回収をするTBSラジオのスタッフたち。

Tシャツを制作しているTシャツメーカーではない。自分で不要Tシャツを集めて、デザインを決めて、それをリユースTシャツとして蘇らすことを体験してもらい、それを着ることによって、また次にメッセージを伝えてもらいたいのだ。

なぜ、リユースTシャツか？

Tシャツは誰もが持っているアイテムだ。そして、その人の個性が現れやすい。メッセージ性もある。そんなTシャツというアイテムをリユースすることは、きっと多くの人が共感してくれるはずだし、関わりやすいはずだ。

その反面、簡単に手に入れやすいTシャツは、簡単に廃棄されやすいという皮肉な部分がある。お土産としていただいたり、キャンペーンTシャツ、スタッフTシャツとして配られたけれど、着たのは一度だけ...あるいは、タグさえも取らず、そのままにしてある...など、こういったケースを経験している人は少なくない。

その一方で、環境問題、社会問題を改善していく際に、必ずキーマンになってくるのは、いつの時代もトレンドを作れる若者たちなんだと思う。だから、環境問題、社会問題の改善を提案していくには、常に若者たちを意識しなければならないし、若者たちに受け入れられる工夫をしなければならない。かわいくなくちゃいけないし、格好良くなくちゃいけない。

この二点を考え、誕生したのが、リユースTシャツだ。多くの人が抱えている不要Tシャツを、若者が好むデザインで蘇らせる。

環境問題を深刻に語ることは、これは私たちの得意分野ではない。私たちの得意とするところは、環境問題に関わるきっかけ作りなんだと思う。だから、リユースTシャツの核となる精神、「クールに環境問題にコミットしたい」をかなえるには、ピッタリのアイテムなのだ。

さいごに

以前、こんなことがあった。

とある高校の環境委員の顧問の先生から、「文化祭に向けて、環境委員から全生徒に環境的なアクションを起こしたい」と私たちに問い合わせがあった。先生は、

- ・不要Tシャツを全校生徒から回収すること
- ・文化祭に間に合うように回収したTシャツをリユースTシャツにして販売し、慈善団体に寄付すること

これらを目標に、生徒たちに話し、訴えかけたものの、動いたのは先生一人で、生徒たちは全校生徒に向けて発信することすら出来なかったという。

その一方で、先日、出展したイベントに女子高生がわーっと大勢でリユースTシャツを買いに来てくれた。「私、コレがいい!」とか「コレ、どう? 似合う?」とか、みんなでわいわいお気に入りのリユースTシャツを探している。話してみると、どうやら彼女たちはチアリーディングの部員たちで、お揃いの練習着を買いに来たのだと言う。そこで、私がこのリユースTシャツのコンセプトを話すと、「へえ~、そうなんだ! こんなかわいいのに、環境にも良いんだ! 先生に教えてあげよう!」と笑顔で答えてくれた。

先にも触れた「トレンドを作れる」若者、高校生に、いかに環境問題にコミットメントしてもらえるか、今こそ大人たちに課せられた課題なのでは、と思う。

注1: 株式会社スーパープランニング

<http://www.superplanning.co.jp/>

注2: アースデイ東京

<http://www.earthday-tokyo.org/>

注3: ヒューマンアカデミー

<http://haa.athuman.com/>